

安心の設計

QOD 生と死を問う 第8部

身寄りのない人だけでなく、配偶者との死別や離婚などによって、誰もが高齢期にひとり暮らしになる可能性もある。介護が必要になっても、住み慣れた場所ですべて迎えることができるのか。そのためにはどのような備えが必要なのか。質の高い死(Quality of Death)とは何かを探るシリーズの第8部は「ひとりの最期」をテーマに考える。

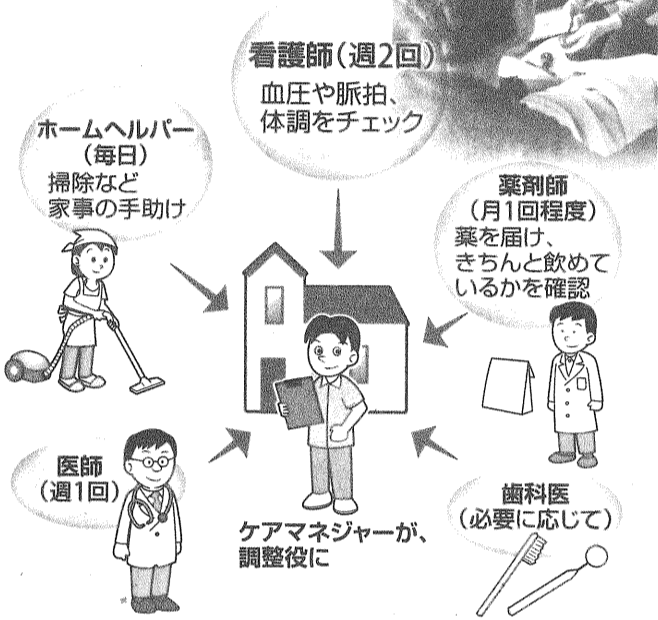
(大広悠子)

熊本市内の市街地の二軒家で一人暮らしする女性(90)は、左足に転移したがんの影響で歩行が不自由だ。治療法はないと言われ、高血圧や心臓の持病もある。横になって過ごす日も多い。約2年前、ひとり暮らし

「在宅」24時間支える ひとりの最期

ひとり暮らしの女性(90)の生活を様々な人が支えている

訪問看護師(右)から体調に関して、アドバイスを受ける女性(熊本市内で)



女性は今現在、ホームヘルパーや看護師、医師、薬剤師らの訪問を受けて生活し、大好きな相撲やサッカーをテレビで観戦。美容師をしていただくため、数日に1度、散歩すれば、かつてのお客さんに会うこともあり、それが楽しみだと笑う。訪問看護師からは「体調がおかしいと思ったらいつでも連絡してください」と、24時間対応する携帯番

訪問看護や介護活用

女性の介護計画を作った「ファーマダイワ」(熊本市)のケアマネジャー、八木浩嗣さん(40)は「看取りまで対応できる在宅医療」があり、本人の意思がはっきりしていたので、体制を整えやすかったと話す。女性は「自由がなくなるから、施設に入るつもりはなから、やっぱり最期まで

を心配した横浜市の長女夫婦の自宅に同居したこともあったが、「家に帰りたい」と何度も訴えて、間もなく熊本に戻った。女性の長女(68)は複雑な思いを話す。「方言で話せる知り合いもおらず、慣れない生活をさせることになる。治らないなら、できるだけ長く望みをかなえたいと考えた」

さらに、普段の状態をよく知る在宅医らの連絡先が分かる書類を入れた筒を冷蔵庫に入れ、そのことが分かるよう玄関ドアの内側に貼る紙をしている。たとえ意識がない状態で見つかったとしても、在宅医らに連絡してもらえようようにするためだ。

在宅医療 医師や歯科医師が時間を決めて、患者の家に
出向く「訪問診療」や、病状の悪化などに応じて緊急に
訪れる「往診」、定期的に看護師が来て状態をみる「訪問看護」などがある。国は、在宅医療を充実させて、自宅で最期まで生活できるよう、24時間体制で患者に対応できる事業者への報酬を厚くしている。

家がよか」とうれしそうに話す。
* 「最期まで自宅で過ごしたい」と望むなら、自宅を訪れてくれる医師や看護師の存在が重要です。日本訪問看護財団(東京)の佐藤美穂子常務理事は話

看護師らが定期的に訪問し、血圧や体温、受け答えの仕方など、普段の状態を知っていれば、持病の悪化を防いだり、突然倒れることを避けられたりするからだという。

同ステーションの田中道子所長は強調する。「具合が悪くなってから病院に行くのでは遅い。定期的に在宅医療を活用すれば、ひとり暮らしでも自宅での看取りは、決して難しいことではない」

問看護ステーションでは、看護師が定期訪問の際に80歳代の女性の顔のむくみに気づくなど、異変を感じて医師に連絡、医師の指示で薬を飲むことにした。本人は「何ともない」と首をかしげていたが、放置すれば、心不全などで倒れかねない状態だったという。

医療と介護連携に課題

介護認定を受けている高齢者は、医師の指示があれば、健康管理のために、介護保険を使って、訪問看護などを利用できる。

しかし、ケアマネジャーがつくる介護計画には在宅医療サービスが盛り込まれない傾向がある。例えば、訪問看護を受けている人は、介護保険を利用している人の1割程度にとどまる。

医療と介護の連携についての著書がある東京都西東京市の在宅療養連携支援センター「にしのみ」の高岡里佳センター長は「点滴などすぐに医療的な処置が必要でない、なかなか在宅医療の利用に結びつかない。ケアマネジャーの中には、医療との連携に苦手意

在宅医療の利用が広がらない理由 (高岡さんの話をもとに作成)

ケアマネジャー側	利用者側
・利用開始のタイミングを見極めるのが難しい	・自宅に他人が入ることに抵抗がある
・利用者の負担額が高くなるので提案しにくい	・医師や看護師が、定期的に訪問してくれることを知らない
・在宅医療を行う医師や看護師が不足している	・ケアマネジャーに、在宅医療の相談はできないと思っている

識をもつ人も多い」と指摘する。さらに、24時間対応をうたいながら、夜間に連絡すると「救急車を呼んで」と断る事業者もある。在宅医療に熱心な医師や訪問看護ステーションが見つからない地域もあり、体制の整備が課題になっている。

©QOD=Quality of Death (Dying) 「死の質」の意味。過去の連載は読売新聞の医療情報サイト・ヨミドクター (<https://yomidr.yomiuri.co.jp/qod/>) で読むことができます。次回は1月の予定です。